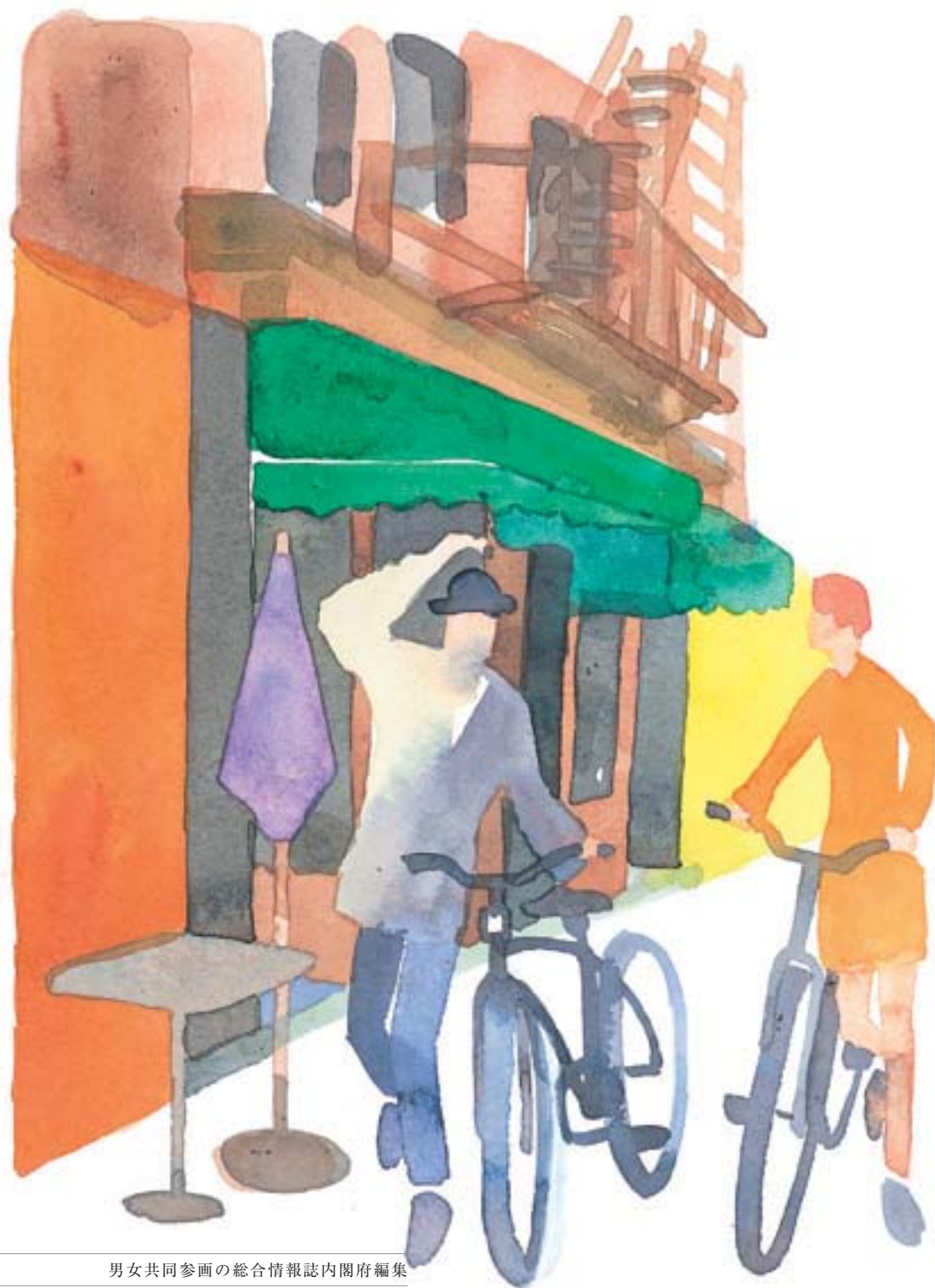


Special Feature

特集／APEC 女性と経済活動



主な予定

Schedule

(平成23年)

1月29日

男女共同参画フォーラム（仙台市）

第15回APEC/WLN会合を終えて

Greeting

2010APEC/
WLN実行委員長
NPO法人J-Win
理事長
(株)ベネッセホールディングス取締役副社長
ベルリッツ コーポレーション代表取締役会長兼社長兼CEO

内永 ゆか子



Uchinaga Yukako

日本が初めてホストとなつての第15回APEC/WLN会合が、海外から242名、国内から331名、合計573名という予想をはるかに上回る大勢の方々に参加いただき、盛大なうちに無事に幕を下ろしました。実行委員長として誠にうれしく、事務局として努力を重ねてくださった内閣府関係者、男女共同参画推進連携会議メンバーの諸団体、当日さまざまな形でこの会合に参加・ご協力をいただいたすべての皆様に心から御礼を申し上げます。

今回のWLN会合にはいくつかの特徴があります。これまでは女性起業家や市民運動家などが中心でしたが、今回は企業で働く女性たちにもスポットを当てました。また、WLNはAPECの非公式会合なので、提言をAPEC閣僚会議に提出するものの、その実効性については曖昧でした。そこで公式会合であるABAC（APECビジネス諮問委員会）に働きかけ、提言を実現性のあるものにするよう協力を依頼。さらに恒常的なWLNマネジメント委員会を新たに設置し、各エコノミーのWLN事務局と連携して継続的かつ累積的な活動とする。そしてKPI（重要成果目標）を設定することで、各エコノミーの経済活動における女性の活躍推進に貢献します。

ともするとお祭りで終わってしまうWLNを、日本での会合を契機に、具体的な実績を積み重ねることによってその存在価値が一層向上するよう今後も努力してまいります。

目次

Contents

特集

APEC 女性と経済活動

Page 02

連載

その1 ワークライフ・マネジメント実践術⑧／

渥美 由喜（株式会社東レ経営研究所ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部長）

Page 20

その2 こんにちは！厚生労働省です。

～雇用の分野における男女共同参画の取組をご紹介します～

平成22年度「均等・両立推進企業表彰」表彰企業決定

Page 21

その3 平成22年度 女性のライフプランニング支援総合推進事業

「はたらくくらす見つめよう私のライフプランニング」ワークショップ開催

Page 22

ニュース&インフォメーション

「平成22年度アジア・太平洋地域の

女性リーダーエンパワーメントセミナー」実施報告 他

Page 23

リレートーク

江 京子（めいわ市民活動サポートセンター理事・MCネット

（明和子ども・家庭支援ネットワーク代表・DVチャイルドネットワーク代表）

小山内 世喜子（アピオあおもり 青森県男女共同参画センター 副館長）

APEC 女性と経済活動

内閣府男女共同参画局総務課

APECと女性

2010年は、日本がAPEC¹議長を務める年です。APECという各エコノミー²の大統領や首相が集まり、開催地の民族衣装を着て写真におさまるAPEC首脳会合をイメージされる方も多いかもしれません。実際は、議長エコノミーの各地で1年を通して様々なAPEC関連会合が開催されます。今年であれば、高級実務者会合（2月、広島市）を皮切りに、貿易（札幌市）、エネルギー（福井市）、観光（奈良市）、中小企業（岐阜市）、食料安全保障（新潟市）等日本各地でAPECの様々な課題を議論する大臣会合等が開催され、その議論の集大成が11月の首脳会合（横浜市）と位置づけられています。

APECにおいては、女性の経済活動を取り巻く課題も重要事項として議論されています。今年も、3つの女性関連会合が開催されました。女性リーダーズネットワーク（WLN）会合（9月19～21日、新宿）、男女共同参画担当者ネットワーク（GFPN）会合（9月23日、嵐山町）、女性起業家サミット（WES、10月1日、岐阜市）です。これらの女性関連会合は一連の流れとして開催されました。WLNで、民を中心とする女性リーダーが、女性の経済活動を取り

巻く課題全般を議論し、GFPNは官の政策担当者がWLNでの議論も踏まえて取組を議論し、WESは特に女性の起業促進に注目した会合です。これらの会合のうち、大規模かつ最も歴史が長いWLNを中心に開催の模様を紹介します。

WLNの概要

WLNは、APEC参加21エコノミーの産業界、学界、行政、民間団体などの女性リーダーからなるネットワークで、男女共同参画社会の実現のために女性達が経済活動の発展に寄与することを目的としています。具体的には、APEC内における女性の経済活動を促進する施策を盛り込んだWLN提言をとりまとめたり、活躍する女性とWLN会合で身近に接することにより触発される機会を得たり、女性リーダー同士のネットワークを構築する貴重な機会となっています。

1996年にフィリピンで初めて開催されて以来毎年議長エコノミーで開催され、毎回300～500名が参加してきました。今年で15回目ですが、日本では今回が初開催で、APEC内の18エコノミーから約600名の参加者が集まりました。



岡崎大臣、内永委員長と各エコノミー代表

ハイレベルからのメッセージ

開会式には、菅直人総理大臣、岡崎トミ子内閣府特命担当大臣（男女共同参画）、内永ゆか子WLN実行委員長が出席し、WLNに寄せる期待を述べました。

菅総理は、「経済成長に向けて、女性の力をいかに活かしていくのが課題である。日本では、M字カーブが存在し、育児期の女性の能力を発揮できていない状況がある。年内に第3次男女共同参画基本計画を策定するが、潜在的な女性の力を活用できる基本計画を作りたい。WLNでの議論がAPEC各エコノミーの活力の源として、女性の活躍の機会拡大に大きな役割を果たすことを期待する」と述べました。

岡崎大臣は、「APEC地域は各エコノミーの連携により世界経済の発展に貢献してきたが、女性の活躍促進による成長の余地は大きく残されており、APEC成長戦略の重要な構成要素の一つである「あまねく広がる成長」実現のカギである」とWLNにおける議論の意義を述べました。

内永WLN実行委員長は、「ビジネスモデルの変化、人材等の多様化が求められる昨今において『女性による新たな経済活動の創造～人、自然、文化を生かす』というメインテーマのもとに、女性の組織におけるキャリア構築と女性の起業について議論する。建設的な議論を経て、参加者の皆さん自身が実りある成果を出してほしい」と会合への意気込みを述べました。

¹Asia-Pacific Economic Cooperation:アジア太平洋経済協力

²21エコノミー：豪州、ブルネイ、カナダ、チリ、中国、中国香港、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、メキシコ、ニュージーランド、パプアニューギニア、ペルー、フィリピン、ロシア、シンガポール、チャイニーズ・タイペイ、タイ、米国、ベトナム



菅内閣総理大臣



岡崎内閣府特命担当大臣（男女共同参画）



内永WLN実行委員長

WLN会合の概要

今年のWLNでは、「女性による新たな経済活動の創造～人、自然、文化を生かす」というテーマを設け、1日目はWLNの役割を含む全般的課題、2日目は組織における女性、3日目は女性の起業をめぐる課題を中心に、議論が行われました。

具体的には、国際機関高官やAPECエコノミーから参加した女性CEOや女性起業家等による、3つの基調講演、3つのパネルディスカッション、6つの分科会において活発なディスカッションが行われました（「主な会合プログラム」参照）。また、こうした議論を踏まえて、WLNからAPEC首脳・閣僚に向けた提言が検討され、最終日に採択されました。

また、WLNは、参加者同士のネットワーク構築を目的の一つとしています。日本舞踊のイントロによる開会式で幕をあげましたが、歓迎レセプション、昼食会、夕食会、エクスカッション等での日本文化の紹介や懇談もあり、参加者が交流を深める場となりました。



「日舞扇乃会」による日本舞踊

参加型の会合運営

今回の日本開催では、実行委員会において会合の企画を進め、パネルディスカッション、分科会、展示、エクスカッション、文化イベント等の企画・運営等は女性団体等によって行われました。WLNの企画を通じて、これまでコンタクトのなかった海外の講演者と交流するなど、団体等自体のネットワーク構築を促進するメリットもあります。

また、学生ボランティアの活躍も今回のWLNの特徴です。女性リーダーに身近に接する機会を得て、触発された学生も多かったようです。

来年に向けて

来年のWLNは9月にサンフランシスコで開催予定です。閉会式では、クリントン米国国務長官より「WLNは女性同士をつなげ教訓を学びあうAPEC唯一の会合である。参加者の来年米国開催のAPECへも参加を期待する」旨のビデオメッセージが紹介され、WLN旗が米国代表に引き継がれました。また、内永委員長は、閉会挨拶において、WLNの恒常的な運営方法を提案するとともに、日本開催成功への関係者への謝意と来年の米国開催への期待を述べ、今回の会合は幕を閉じました。

また、WLN活動を効果的にAPECに反映させるため、11月にABAC（APECビジネス諮問会議）女性委員とWLN実行委員で今後の連携について意見交換し、来年の展開に繋げました。

主な会合プログラム

1日目（9月19日）

- ・開会式
- ・基調講演「2015年までのミレニウム開発目標の達成に不可欠な女性の経済的エンパワーメント」（モエズ・ドレイド氏）
- ・パネル「APECにおけるWLNの役割と今後の課題」
- ・歓迎レセプション

2日目（9月20日）

- ・基調講演「ハイヒールから安全靴まで」（ニコール・ホロウス氏）
- ・パネル「女性たちによる経済活動創造への挑戦」
- ・ネットワーキング昼食会
- ・分科会「組織における女性のキャリア構築」
女性の経営参加、人材育成・教育、科学・技術分野の各分科会
- ・エクスカッション

3日目（9月21日）

- ・基調講演「時代が求める女性の起業力」（今野由梨氏）
- ・パネル「各国にみる女性の起業力」
- ・ネットワーキング昼食会
- ・分科会「人、自然、文化を活かす女性の起業」
農山漁村、ニュービジネス、地域経済の各分科会
- ・各分科会成果発表、提言採択
- ・閉会式、夕食会

【WLN関連ホームページ】

<http://www.apecwln2010.jp>



モエズ・ドレイド氏



ニコール・ホロウス氏

基調講演 1

19日はAPECエコノミーの一つであるニュージーランドで117年前に世界で初めて女性に参政権が与えられた日であるとモエズ・ドレイド氏（国連婦人開発基金（ユニフェム）事務局次長）より「2015年までのミレニアム開発目標（MDGs）の達成に不可欠な女性の経済的エンパワーメント」と題した基調講演が行われました。この20年社会における女性の参画は大幅に拡大しているが、まだ雇用や賃金等に格差は存在する。ユニフェムの男女共同参画に関する報告書では4つの分野での行動が必要としている。1つ目は女性の雇用、生活の糧を得るチャンスの強化。2つ目は女性のリーダーシップを高め、社会における発言権と影響力を高めること。3つ目は公共サービスにおける女性のアクセス拡大、4つ目は女性に対する暴力の収束。女性のエンパワメントへの探求はすべての人間の尊厳の探求から生まれて来る。様々な研究によると女性が就労し、所得を確保することにより貧困が削減されることになる。これは子供にとっても家族にとってもよい教育、よい健康に結びつけることができる。

世界のリーダー達は現実を認識するようになってきているが、ミレニアム開発目標達成にむけて2010年MDGsサミットで表明される成果文書は「女性に対する投資は、生産性、効率、また持続可能な経済成長に対して相乗効果をもたらす」ということだ。

そのためには女性のディーセントワークへのアクセスや男女の賃金格差、包括的・社会的な保護と育児施設などインフラの整備などが大切。また女性が資産などにアクセス出来ることも重要で家庭内での参画がひいてはDV等の減少につながる。DVは経済の生産性の低下を招き、毎年何10億ドルもの損失を招いている。賃金ギャップについても女性が管理的な仕事に従事すればその幅が縮まってくると言われており、今年3月に発表されたユニフェムと国連グローバルコンパクトによる「女性のエンパワーメントのための指針」の7つ目の指針では企業が男女共同参画達成の進展状況の評価と公表を謳っている。日本をはじめ世界各地で女性のエンパワーメント指針の推進を働きかけている方や推進力になってくださる方に感謝をしたいとスピーチを結びました。

基調講演 2

2日目、朝一番でオーストラリアのニコール・ホロウス氏（マッカーサー・コール最高経営責任者及び業務執行取締役）により自身のキャリアと第一次産業企業でCEOを務めることについて「ハイヒールから安全靴まで」と題した基調講演が行われました。

ホロウス氏は公認会計士からスタートし、転職先が現会社の前身、コッパベラ鉱山。ここでハーバード・ビジネススクールでのマネジメント開発の勉強や入社後次々昇進のチャンスを与えられてきた。この間男性だったら聞かれないような質問

も多かったが、「機会さえ均等に与えられて一生懸命にやれば必ず出来る」という経験を積んできた。女性リーダーにとって大事なことはイニシアティブをとってリーダーシップを発揮し、自身がロールモデルになって必要な現場の変革をもたらすこと。また女性のパフォーマンスが認められ、トップにつかなければ必要な変革ももたらせないのだから組織の色々な層に有能な女性がいることが大事。

2008年のマッキンゼーの調査によると女性が権威のある地位にいる会社の方が平均EBIT（利払い前の税引き前当期利益）が48%高いと言われている。ただし、経営の変革をもたらすためにはある程度の人数の女性が必要である。労働力確保の観点から現在鉱山で働くトラック運転手の21%は女性となったが最初は働き方等調整をすることが必要であったように企業において女性を昇進させたり、働き続けられる環境などに柔軟性を提供していくことが必要。子育て中の働き方を模索してきたが、自分自身の工夫やがんばり、加えて職場のチームのサポートがなくては継続して働くことは難しい。多様性をもたらしたい企業は目標を設定し、多くの女性を迎えようとしており、目標を法制化することも飛躍的に変化をもたらすには必要と言える。

リーダーシップとは変化をもたらすにあたって先頭をきること。女性に一番不足しているのは「自信」であり、組織の中での責任は己にありと講演を締めくくり、参加者にエールを送りました。



今野由梨氏



基調パネルディスカッションの様子：左よりスー・ハイ・ジュン氏、ヤオ氏、リーバ氏、ブランド氏、内永氏

基調講演3

3日目には今野由梨氏（ダイヤル・サービス株式会社取締役社長）による「時代が求める女性の起業力」と題した基調講演が行われました。今野氏は日本の女性起業家の草分けの1人であり、これまでの体験を3つに区切って講演を行いました。

「夜明け前」では9歳の時の震災体験で「私は一生、皆が幸せになれるように頑張る、仕事をもって自立したい、世界とつながる仕事をしたい」と将来の生き方を決意したこと、「朝の時代」で大学入学や起業するまで、「昼の時代」で起業から現在まで。女性が4年制大学に進学することが珍しかった時代に大学を出て、男性優位の中での就職活動と失望、そして行き詰まった先に見つけた希望の光が起業家への道だった。「自分の人生は、誰も代わってくれない。自分の夢は、自分が責任を持って実現するしかない」

アメリカで出会った女性起業家の言葉に背中を押されて1969年に日本では初めての電話相談サービスの会社を設立。高度経済成長の真っただ中、都会の核家族で孤立して子育てをしているお母さんを対象とした「赤ちゃん110番」は、電話回線をパンクさせることとなり、ニュービジネスベンチャーには多くの課題をもたらした。電話を使ったビジネスの禁止など法律や規制、情報等形がないものは経済価値が認められなかった時代に課金制度がなかったこと、女性の労働に対する労働基準法の規定。これらの課題に果敢に立ち

向かいながら、社会のニーズに応えることとなった。女性の感性や能力を活かしながら新しい女性のための雇用の場を作りダイバーシティの実現を目指すことが会社の使命となり、多くの電話相談サービスを生み出していくこととなった。

起業してから1年後には30%、10年後には75%、30年後には98%の会社が完璧に消滅するという。女性起業家の輩出には様々なことを考えていかねばならないが、女性起業家自身へのメッセージとして次の7つのいずれかの必要性があることを指摘した。①やりたいことがあること②やり抜く強い意志③ポジティブ・シンキング④想像力と行動力⑤活かされていることへの感謝の念⑥時代を読む力⑦コミュニケーション力。今野氏の多くの体験に裏付けられた話に参加者は熱心に耳を傾けていました。

基調パネルディスカッション

「APECにおけるWLNの役割と今後の課題」というテーマでパネルディスカッションが初日に行われました。コーディネーターのアンドリーナ・リーバ氏（リーバ・エンタープライズ社長）より、WLN共同創始者としてWLNがスタートした経緯やこれまで女性問題担当大臣の会合や男女共同参画担当者ネットワークの創設などのWLNの成果等が語られた後、WLNの成功と提言の実施のため各エコノミーで参加者の継続的な働きかけが必要と述べられました。その後4人のパネリストに次の質問がなされました。

① WLN議長エコノミーとしての

経験と成果など

- ② APECの重要性とWLNの役割
 - ③ WLNが持続するための課題
 - ④ WLN会合で期待したい結果
 - ⑤ 「女性のエンパワメントのための指針」が支持されるための方策等
- フィリピンのミルナ T・ヤオ氏（Richwell Trading Co. 最高執行責任者）は①の質問に対し、ラモス元大統領が女性の開発指導に熱心であり、第1回目のWLNの開催ができた経験から政府と民間が一緒に行動することの大切さを述べました。またスー・ハイ・ジュン氏（韓国女性起業家協会会長）は2005年WLN開催を契機にアジア女性起業家会議の開催や女性の起業家への政府契約受注の配分法案などの報告がありました。スー・ハイ・ジュン氏は質問②、③で世界金融危機におけるAPECエコノミーの強靱性と経済力に女性の起業チャンスも増大し、ひいては政策立案に反映が可能になると述べました。チリのエリザベス・ボン・ブランド氏（北カトリナ大学准教授）は③、④で女性科学者の育成もビジネスをよくするという、そのためにはWLNではネットワークの強化を期待すると述べました。質問⑤についてはブランド氏はWLNでは女性のエンパワメントを支援すべきとし、ヤオ氏からは女性の経済的な権利を守るマグナカルタ制定を推進してきたことなどが述べられました。内永ゆか子WLN実行委員長は参加者がコミュニケーション、グローバルなネットワーク構築、オープンな議論をし、提言を継続してフォローしていくWLNにしたいと述べました。

全体パネルディスカッション1 「女性たちによる経済活動創造への挑戦」

企画・運営：日本BPW連合会

<http://www.bpw-japan.jp/japanese/index.html>

WLN2日目、「全体パネル1」が修了したとき、BPW関係者は正直ホッとしました。私達が担当する「女性たちによる経済活動創造への挑戦」が、企画団体による最初のプログラムであり、その成否が全体の成否に大きく影響すると言われ続けてきたからです。

- 1) 各パネリストが、当初の意図にそった発言をしてくれるだろうか
- 2) 会場の参加者が、手短に、相応しい発言をしてくれるだろうか
- 3) コーディネーターが、提案書に盛り込める結論を導きだしてくれるだろうか

こうした不安をチェック項目に変えて、各パネリストへの事前折衝、当日使用されるPPTの画面の調整、発言時間の管理、会場マイクの仕切りなど諸々の作業にBPWならではのその分野の実力者たちが綿密に仕事をしました。協力は国内だけではなく、例えば世界を飛び回るインターナショナルの会長との連絡、パネリスト候補の推薦や資料の提供など、関係国のBPWの仲間がメールひとつで動いてくれたのです。また、各パネリストには、発言の主旨を明確につたえるためにキーワードを入れるよう事前にお願しました。



以下パネリストのみなさんの発言です。

- 1) 岩田喜美枝氏（株式会社資生堂代表取締役・執行役員・副社長）人は経営資源であり、女性を活用しなければリソースの無駄使い。男性中心のモノカルチャーは変化の時代に対応困難。
- 2) バンジー・ウォン氏（ニュージーランド女性政策大臣・民族問題担当大臣）

世界で始めて女性が参政権を獲得した国。国会議員の3分の1が女性で、女性の登用が高いほど、経営成績は良い。女性だからではなく優秀だから活用する。

- 3) アメロウ・レイエス氏（フィリピン国家女性委員会議長・女子大学経営）

女子教育は、新しい秩序を生み出す苗床を創るような作業である。女性の経済活動はその独自性「ウイメノミクス Womenomics」で考える。

- 4) 林 文子氏（横浜市長）

市長職は女性のポジションに向いている。営業と共通するキーワードは「おもてなし」。共感と信頼が重要であり、女性は共感力に優れているので自信を持って挑戦を。

- 5) ニコール・ホロウス氏（マッカーサー・コール会社代表取締役）

女性がリーダーになるためには、迅速に行動に移す機敏性と柔軟性、及び適切に状況を読むことが必要。また、活躍を支えるWLBを含む環

境整備が重要。

引き続き会場参加者の意見を求めたときには、マイクの前には長い列ができました。

☆ 男性のCEOをこうした会合に招待し理解を深める必要がある。

☆ 若い女性を巻き込むことが必要。

☆ 20兆ドルの消費を支えるのは女性、女性の経済効果を認識せよ。

☆ こうした会合に参加することは仕事にプラスになると、男性である私も思う。

☆ 日本に於ける企業の95%が中小企業だが、そこでは福利厚生施設の充実が難しい。

これらを踏まえてコーディネーターのエリザベス・ベンハム氏は、女性が役員会に参加できる地位につくべきであり、そこで女性が十分に役割を担うということが経済の成長の鍵を握るものである。その意味で、APEC域内においてこれから経済成長の鍵を握るのは、女性であると締めくくりました。

パネルを終えて会場での鳴り止まない拍手を聞きながら、こんな素晴らしいお話はもっと多くの人たちに聞かせたかったというコメントを耳にしたとき、成功を確信することができました。この企画・運営を通じて、私達自身も多くのことを学び勇気をもらいました。御協力下さった全ての皆様に感謝申し上げます。





発言から始まる、女性のこれから

全体パネルディスカッション2 「各国にみる女性の起業力」

企画・運営：

ユニフェム日本国内委員会

<http://www.unifemnihon.jp/>



新たな時代に向けて、様々な視点から議論が展開

女性たちが起業する際に壁となる資金調達や市場開拓、法律や規制等から問題点を提起し、社会的な課題を解決しつつビジネスを行う「社会的企業」の視点をふまえ、女性同士の支援や社会への波及効果などをとらえて参加者とともに議論を深めました。

登壇者の紹介

坂東真理子氏（昭和女子大学長、ユニフェム日本国内委員会理事）をコーディネーターに、パトリシア・フォレイ・ハイネン氏（キャピトル・シスターズ・インターナショナル創設CEO／マイクロエンタープライズ・ディベロップメント・プログラム共同創設者兼議長）、王如玄氏（チャイニーズ・タイペイ劳工委員会主任委員）、中村紀子氏（株式会社ポピンズコーポレーション代表取締役）、アルマ・ジワニ氏（ユニフェムカナダ国内委員会代表）の4名をパネリストに活発な討論を行いました。パネリストの発言から

ハイネン氏は、発展途上国において女性の貧困問題が継続している状

況に対しマイクロクレジットを活用し途上国で融資をする事業を実施し貧困撲滅に取り組んでいるというご自身の活動紹介があり、担保もなく動産もない女性たちへの融資は重要であること、そして、リーダーシップを持つ女性たちが貧困状態の女性の問題をとりあげることの大切さとAPEC諸国におけるジェンダーをテーマにした広く深い議論の継続への期待を述べました。

アルマ氏は、グラスシーリングに悩まされている女性たちにはメンターの存在が重要であり、メンターを通して女性同士のパートナーシップが深まり経済力が高まることによって、「女性たちがグローバルな発言権を持ち、経済分野に影響を与えていくであろう」と期待をこめて発言がありました。

王氏は、台湾政府は女性の起業支援のために資金提供やコンサルティングサービスを実施する「フェニックスプログラム」を導入した結果、女性の起業力が高まっていること、また、このプログラムを活用して母子家庭の母がレストランを開業し成功、現在は母子家庭の女性たちを雇用する経営者となっているとの事例紹介もあり、「女性が事業を起こすためには、政府等の公的なサポートが重要である」等の発言がありました。

中村氏からは、「ワーキングマザーを助けたい」と保育を業として株式会社として起業した23年間の経験をもとに、ビジネスチャンスは生活に密着したところから生まれるので女性こそ経営者に向いている、経営のポイントは自分ができることから

進むこと、経営者となればどの時間帯に働こうとも自由でタイムマネジメントが可能等の発言があり、「日本の成長戦略の一つは保育。これからも働く女性を支援していきたい」と応援メッセージもありました。

参加者とのディスカッションへ

その後、会場の参加者から次のような積極的な発言がありました。

- ・各国ではどのようなマイクロクレジットがありエントリーするためにはどうしたらよいのか、
- ・日本では中小企業の会社が倒産し女性が失業するケースもある、また契約社員・非正規雇用など雇用が安定しない女性が多く生涯の雇用問題についてどのように対応するべきか
- ・公務の民間化で公的サービスに携わるようになったが経営へのアドバイスをいただきたい
- ・女性が起業して自宅を仕事場にする場合に保育サービスが受けにくいことがあるが現状はどうか等

APEC WLN会合のこれからに向けて

最後に、坂東氏から、経済活動において女性が力を発揮するためには、女性を対象としたマイクロクレジットや社会的投資等の資金の循環やロールモデルやメンターといった女性同士のパートナーシップの循環が重要でありこれらを支える仕組みづくりも必要となってくる、そして、こうした循環により社会的課題を解決する「社会的企業」の成長が見込まれ利益追求型のこれまでの企業とは異なる新たな価値の創造が女性たちから始まる、と力強く発言がありました。



中国、韓国、フィリピン、タイ、シンガポール、日本と6ヶ国の女性エグゼクティブがキャリアアップについて語った

分科会 ①

「女性たちも経営に参加しよう！」

企画・運営：NPO法人J-Win

<http://www.j-win.jp/index.html>

当法人の内永ゆか子理事長がWLN実行委員長を務めることになったので、J-Winとしてもこの機会を、自己啓発やグローバルネットワーク、そして日本のキャリア女性たちのアピールの場と捉えて、積極的な参画を目指しました。83社の会員企業にもWLNの広報をはじめさまざまな協力を依頼し、50名の女性メンバー、事務局スタッフをWLN会合に参加させることができました。

また会合2日目の午後からは、「組織における女性のキャリア構築」という共通テーマのもと、3つの分科会が持たれ、J-Winはそのうちの第1分科会「女性の経営参加」分科会を企画運営しました。

その他に、エクスカッションでは、2つのコースを担当。さらに本会議終了後の翌22日には、内閣府・男女共同参画推進連絡会議との共催で2つのサイドイベント「グローバルリーダーを目指して」と、「理系女性のためのグローバルキャリアディベロップメント」（こちらはIEEEとも共催）を開くなど、非常に充実した数日間となりました。ここでは、紙面の関係で、第1分科会の内容について報告をします。

女性も恐れずにチャレンジしよう！

まず、みずほ証券(株)代表取締役社長の横尾敬介氏にスピーチいただきました。



女性たちに熱いメッセージを贈るみずほ証券(株)社長の横尾敬介氏

企業経営においては、人材が全てであり、優秀な人材を確保するには、男性も女性も人種や宗教、年齢も関係ない。ダイバーシティこそ、グローバル化された市場で戦うための源泉であり、経営戦略として真剣に取り組んでいると具体的な取り組みを含めて語りました。そして、女性たちには、失敗を恐れずにチャレンジして欲しい。失敗を恐れて試さないことよりも、チャレンジして失敗したほうが多くのことを学ぶことができると、会場の女性たちへ熱いメッセージを送りました。

自己アピール上手になろう！

続いてのパネルディスカッション「女性たちも経営に参加しよう！」には、6カ国の女性管理職が壇上に並びました。

ジュリー・ゾウ氏（IBM中国グローバルデリバリーセンターHR役員）、ビョン・オク・ソン氏（韓国プルデンシャル生命保険最高執行責任者／K-Win理事長）、キャンディス・ジュニファー・アラバンザ・イヨグ氏（フィリピン セブ・パシフィック航空マーケティング・流通部長）、ダンジャイタウィン アナンタチャイ氏（タイ リサーチ・ダイナミクスマネージングディレクター）、テリー・テオ氏（シンガポール アグファ・アセアン 地域

販路マネージャー）、星野朝子氏（日産自動車（株）執行役員兼市場情報室室長）。ジュリー・ゾウ氏がファシリテーターを務め、パネラーそれぞれが自身のキャリアを語るとともに、仕事への姿勢や女性エグゼクティブになるための心構え、ヒントをたくさん提示されました。

★「どのようにキャリアを築いてきたか、そのために何が必要だったか」という質問には、最初から役員を目指していたわけではなく、仕事を愛し、一生懸命取り組んできた結果という人がほとんど。しかし、人よりも20%は多く仕事をする、職場でのベストになる、ボスを上手にマネージするよう心がけたなど、人並みでない努力をしている。日産自動車の星野さんは、日本女性が男性よりも足りないのは、自分ブランドをアピールすること。自分の強みをみつけ、それを活かす戦略を立て、プロモーションする。周りの人たちに持てる力を理解されてこそエグゼクティブになれるとメッセージされました。

★「エグゼクティブにとって大切なことは？」という質問には、人間関係の重要性やチームワークなど、コミュニケーションを上げる人が多かったが、アナンタチャイ氏は、大きなチームを率いるための「3つのE」を挙げました。

①Empathy（傾聴、共感）

②Encouragement（奨励）

③Empowerment（権限付与）

会場にはさまざまな国の約300名の参加者からたくさんの質問も出て活気あふれる会となりました。

分科会 ②

「女性の生涯にわたるキャリア開発を支える教育システム」

企画・運営：(財)日本女性学習財団<http://www.soc.nii.ac.jp/jawe2>

コーディネーターに入江直子氏(神奈川大学人間科学部教授)、パネリストに、萩原貴子氏(ソニー(株)人事部門ダイバーシティ開発部統括部長)、エレナ・フェダシナ氏(ロシア・The Committee of 20事務局長)、パトリス・ブラウン氏(オーストラリア・バララット大学地域革新競争センター部長)、イ・ビョンジュン氏(韓国・釜山大学教育学部教授)、三輪建二氏(お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授)を迎え、パネルディスカッションを行った。会場後方では、模造紙に議論の流れを絵で描いていくグラフィックファシリテーション(GF)を実施した。参加者は200人近くに上り、人材育成・教育への関心の高さがうかがわれた。



描かれたGFの1枚

まずコーディネーターの入江氏から、女性の経済参画を阻む問題として、①システムの問題(目に見えるカリキュラム)と②ジェンダーの問題(目に見えないカリキュラム)が挙げられた後、企業・非営利団体・

地域・大学などそれぞれの立場から、10分ずつ女性のキャリア開発の課題や取組が報告された。

萩原氏は企業の立場から、男性上司の「行き過ぎた」配慮や女性の自信の無さを課題として挙げ、ロールモデルとネットワーキングの重要性を述べた。フェダシナ氏は、キャリア開発の障害には外的要因と共に内的要因があることを指摘し、学生からトップ管理職に至る女性に向けた、メンタリングを中心とするキャリア開発支援の取組を事例として提示した。ブラウン氏は、知識経済社会における経済参画に向けて、メタ・コンピテンシーの開発と女性に合わせた学習方法が必要であるとし、試行プログラムと成果となる学習の枠組みを報告した。イ氏は、釜山大学で基礎的職業能力開発プログラムを一般教育課程へ導入したことと、自治体や地域女性センターとの連携によるキャリア開発の取組を報告した。最後に、三輪氏は、職業教育を軸にした大学改革が求められること、長期的展望に立った、女性のエンパワーメントにつながるキャリア開発支援の必要性を提起した。



フロアからの質問を聴くパネリストたち

会場からは10名を超える質問者が立ち、「大学への基礎的職業能力開発プログラム導入の成果」「女子

高生の働くイメージと教育の関係」「育休後のキャリアプラン」などについてスピーカーとやりとりをし、議論がさらに深まる時間となった。



議論をまとめるコーディネーター

3日目の成果報告では入江氏が登壇し、①「第三段階の教育(初等・中等教育に続く教育)」を、職業教育を軸に再定義し、生涯にわたるキャリア開発を支えるシステムに変革していくこと、②ジェンダーの視点に立ったキャリア開発で女性をエンパワーメントしていくことをまとめ、産業界・教育機関・地域社会が連携してシステムを開発し女性のキャリア開発を支えていくことが、女性の経済参画推進につながると提言した。

アンケートでは8割を超える人が「よかった」と回答し、自由記述でも「各国の事例が聴けて有意義だった」「教育は学校の中だけでなく、社会と連携して行うことでよいものになると実感」「親として、社会人として、生涯学習の必要性を痛感。娘の世代に間に合うようなプログラムを期待」などの声が寄せられた。

当財団では、この成果を活かして、産業界や教育機関、地域等と連携して女性のキャリア開発支援に今後取り組んでいきたい。



分科会 ③

「女性技術者・科学者のリーダーの育成」

企画・運営：IEEE JC WIE (IEEE Japan Council Women in Engineering Affinity Group)

<http://www.ieee-jp.org/japancouncil/affinitygroup/WIE/>

グローバル化が進む現代、経済発展における女性技術者・科学者の重要性はさらに高まっています。本分科会では科学技術分野の女性リーダー育成に焦点を当てたパネルディスカッションを行いました。

パネリストは、エステラ F. アラバストロ氏（フィリピン 科学技術省前長官）、イレナ・アトプ氏（オーストラリア、IEEE WIE Chair Person、テルソナコーポレーション ネットワークアーキテクチャライアビリティグループ テクニカルマネジャー）、エリザベス・ボン・フランシス氏（チリ、北カトリカ大学准教授）、シャオ・フェンジン氏（中国、青島大学副学長）、山口しのぶ氏（日本、東京工業大学教授）、國井秀子氏（日本、リコーITソリューションズ株式会社取締役会長執行役員）の6名です。参加者は100名を超え、熱気に溢れる中分科会が始まりました。

基調講演者であるアラバストロ氏はフィリピン初の女性科学技術省長官として、卓越したリーダーシップにより女性技術者・科学者支援策を進めてこられた方です。工学部に進む女子がほとんどいなかったフィリピンにおいて、ジェンダー意識育成や科学技術分野の女性登用支援と

いった施策を打つことで、女性リーダーの育成に成功した過程を述べられました。科学技術分野における教育と女性の自立の重要性、女性技術者・科学者のネットワーキングの必要性も示されました。

さらに、それぞれのパネリストから7分の発表（ポジショントーク）がありました。司会者でもあるアトプ氏は、オーストラリアでは科学技術分野を専攻する女性の数が少ない、科学技術分野を専攻した女性の多くが、キャリア開発の過程において専門分野から離れてしまう、という問題が存在することを示し、ブランド氏も、チリでは工学を目指す女子学生が非常に少なく、工学専攻の女子学生の支援策が不十分であるとの現状を厳しく指摘しました。フェンジン氏は、科学技術分野における中国の女性参画の成果を披露すると同時に、トップレベルの女性技術者・科学者の数は未だ十分でなく、さらなる連携が必要との考えを示しました。山口氏、國井氏もそれぞれ、日本における女性技術者・科学者の遅れている現状と問題について述べ、各国多少の状況は違えども、同じ課題に直面していることが再認識されました。

続くディスカッションでは「女性技術者・科学者が少ない原因は？」、「なぜ女性のキャリアが伸びにくいのか」、「現状を改善するためにどのようなアクションを取ればよいのか？」などの質問に関して、熱い議論が繰り広げられ、最終的に以下のような提言案が示されました。

●科学技術分野へ女性参画高めるた

め、国や地域レベルの戦略・政策作りを連携して推進すること

- 科学技術分野の女性リーダーロールモデルとしてハイライトすること
- 科学技術分野の女性の参画評価する統一した指標を確立し、定期的に報告しあうこと

分科会③の会場ではツイッターアカウントも用意され、参加者からのリアルタイムの質問など、多数の発言が寄せられました。その様子は会場のサブスクリーンに流され、明るい雰囲気の下、議論は進められました。終了後のアンケートでも「各国の話が聞けてよかった」、「日本の遅れている状況が再認識できた」、「トップの決断の重要性を感じた」との感想が寄せられ、97%の参加者が「非常に良い」、「良い」との回答した大好評のディスカッションとなりました。

本分科会に続き、9月22日には「2010 APEC WLN サイドイベント “理系女性のためのグローバルキャリアディベロップメント”」が開催され、分科会のパネリストを中心に、各人のキャリアの軌跡やグローバルに活躍するためのノウハウなどが活発に議論されました。

科学・技術分野の分科会が来年以降もAPEC WLN会合において引き続き開催されることを大いに期待しています。





分科会 ④

「人・もの・環境を最大限に活かす
農山漁村女性の起業活動成功の秘訣」
企画・運営：(社)農山漁村女性・
生活活動支援協会

<http://www.weli.or.jp/>

コーディネーター 有馬 真喜子氏（国連女性開発基金日本国内委員
会理事長、当協会顧問）

パネリスト：岡田 ミナ子氏、リ
チェン・パン氏（台湾）、佐野 房氏、
アメロウ・ベニテス・レイエス氏
（フィリピン）

当分科会は、農村女性起業家とし
ての自己・組織・地域変革への努
力、経済的な自立、地域活性化への
貢献など農村女性の活躍を世界へ発
信することを目的とし、様々な分野
に携わる150名近い参加者を得て、
活発な意見交換がなされた。

自然・動物・人間の共存

北海道で自然・動物・人の調和を
目指して酪農を営む岡田ミナ子氏。
自家用の豚をハム・ソーセージに加
工して販売し始め、デパートの売場
に立った時、お金を出せばいつでも
食料を買えるという消費者の態度を
目の当たりにした。そして「食料と
いうのは動物・植物の命であり、私
達はこれらの命を頂いて生かされて
いる」ことに気づいたという。この
メッセージを消費者に伝えるため
に、顔が見える販売にこだわった活
動を続けている。「今年は口蹄疫で
豚を飼えなかったことが一番辛い。
自然界には人間の力が及ばないこと
がある。このことから自分も学びた
いし、他の人にも学んでほしい」と

結んだ。

農村カフェが雇用創出の場に

台湾の農村女性起業プログラム
「ティン・ママ」は、伝統とモダン
を融合させた新しい料理開発と経営
に関する研修が中心で、体に良くて
おしゃれな料理を提供する農村カフ
ェの起業家を育成している。研修を
受けたリチェン・パン氏は、「地元の
しょうがの加工品（クッキー・ジュ
ース）を中心にカフェを経営し、収
入が2倍に増えた。娘を含め都市か
ら村に戻ってくる若者が増え、村の
雇用の場が広がっている」と報告し
た。

経営者としての戦略・決断力

地元ののにんにくの加工品を開発・
特産物化し地域を活性化させた佐野
房氏。活動開始当時は加工商品で成
功したJAの例はなく、JA女性部の
加工活動に反対の声が多かった。し
かし、佐野氏自らが資金面も含め全
責任を負うことでJA関係者を説得
し、7年後には赤字から黒字経営へ
と改善。その後、常勤役員に就任し
てJA合併を成功させるなど組織を
動かす女性経営者としての戦略や行
動力の重要性について説いた。

農業技術を女性に

「フィリピンの農村女性の置かれ
ている状況は未だ厳しく課題は多
い」とレイエス氏。「小さな土地で
も十分に生産性を高められる農業
技術を女性が身に付けることで、彼
らの生活は確実によくなる。この分
科会を通して産業界や技術者と農村
女性を結びつけ、新たな協力が生ま
れることを期待する。そして、若者
が農業に憧れ農業に従事する社会
を作らなければならない」と述べた。

会場との意見交換から・・・男性社会への挑戦

岡田氏は、デパートの販売マネー
ジャーがすべて男性で、最初は名刺
も交換してくれないなど男性社会で
行動を起こすことの苦勞を語った。
この報告に関係して、食品会社に勤
める会場の質問者からは「食品産業
のバイヤーも男性が多く男性社会。
しかし、生活者（消費者）は女性が
中心。」との指摘を。佐野氏も「JA
の役員も男性社会。自分は女性の草
分け的存在だったので大変苦勞した
が、理解者を増やして、これからの
女性に苦勞させない環境づくりが大
事」と訴えた。

おわりに

当協会にとって、初めての国際会
議で色々苦勞もありましたが、日
本の農村女性起業家の心意気と実績
を国際舞台でアピールしたいという
所期の目的を達成することができま
した。21エコノミーの内外の方々に
日本の女性農業者の取組の認識を印
象付け、参加国との共通の課題や意
義を共感する場をつくり、意見交換
では、生活者と女性農業者のネット
ワークづくりの重要性を認識する機
会となりました。今後とも女性農林
漁業者の取組を内外に伝え、女性の
ネットワークに努めて参りたいと思
います。



分科会 ⑤

『新機軸を担うニュービジネスとその未来』

企画・運営：

NPO法人 アジア女性経済会議

<http://www.awec.asia/index.html>



21世紀「人・モノ・金」が益々自由にボーダーレスに動き、ビジネスの在り方も更に多様化する中で、国際的に活躍する女性エグゼクティブ、学識経験者や経営者達がそれぞれの経験と立場、また研究成果から「新機軸を担うニュービジネス」とは何かをそれぞれに語った。

ベトナムから参加し、自然との共存型開発エリア「ブン・タウ・ロイヤルパーク」の設計、建設プロジェクトを率いるドン・ティ・ミンチョウ氏（バ・リア・バン・タウ中小企業連合 副議長）は、孫・子の代まで長く人々が自然環境を保った開発エリアで暮らせるような、自然環境に配慮した開発計画を紹介。女性の目線を活かした持続可能性重視の地域開発の例を見せてくれた。

また、パワディー・トングタイ氏（タマサート大学 理事）は、タイでユニークな成功を取めた二人の女性起業家を紹介。彼らがそれぞれ、子供の気持ちを重視した新しい教育方法を編み出したエピソード、またタ

イの農村でエイズ感染に苦しむ女性達に、雇用の機会を作り出したというエピソードから、女性の社会起業的な発想が成功した具体例を披露した。

日本からは、岡俊子氏（アビームM&Aコンサルティング株式会社代表取締役社長）が、M&Aという新しいビジネスのフィールドで、女性のプロジェクトリーダーがいかにより多くの指導力、気づき、可能性を持つかを、自らの体験を元に語った。伝統的大企業では、まだまだ女性のエグゼクティブの存在が稀有である日本において、女性の特性が活かされる新しい分野があるという事例と発見は、多くの日本女性にとって励みになる話だったのではないだろうか。

マレーシアのキム・ハ・ワン氏（スマートリーダー・ワールドワイド取締役）は、20年前に子供向けの英語教育メソッドを創り、フランチャイズ化に成功した自らの体験を語った。女性だからといって、起業やビジネスを恐れることはない、自分は全くのゼロからビジネスをスタートしたが、知恵と工夫とで、必ず道は開けることを強調し、英語教育のフランチャイズビジネスが国内で多くの起業家を生み出すだけでなく、今や海外でも展開されるようになった理由を自ら分析し語った。

中国から参加した霍 虹 フォ・ホン氏（シノモニターインターナショナル副社長）は、新しい消費時代に突入した中国都市部の主に若い世代の消費動向について多くの例を示しながら、自らが副社長を務める

マーケティング会社の調査結果を語ってくれた。世界第2位の経済大国となった中国で今後どのような消費文化が現れるか、予想、調査、分析において女性の視点が期待されるところだろう。

香港から参加のジョアン・ウォン氏（フライシュマン・ヒラード共同経営者、クライアントサービス 業務執行取締役）は、米国企業のアジア地区のエグゼクティブとして、女性のコミュニケーション能力の高さが、いかにPRの分野で活かされているかを強調。在籍する会社において、世界50か所以上にある支社の3割以上で女性のトップを擁しており、多くの女性エグゼクティブが活躍していることを裏付けとして語った。

以上分科会5の参加者達からの話から、新時代のニュービジネスの定義と、その新機軸を創る女性の役割と可能性として、以下のようなまとめを試みる。

1. 新時代のニュービジネスは、グローバル経済を牽引する可能性を持つものである。新たな需要を見出し、満たしながら、国境を超えて拡大、他国経済に寄与し、国境を越えた価値観を創り共有するものである。

2. 21世紀のニュービジネスが成功するためのキーワードは、持続可能性、多様性、コミュニケーションである。つまり、新しい時代のニュービジネスを創り、育てるうえで、女性は「持続可能性を考え、またコミュニケーションに秀でているその特性」から大きな役割を担わざるを得ないと結論づけたい。



分科会 ⑥

「地域に根ざした企業経営における女性の力」

企画・運営：中小企業家同友会全国協議会

<http://www.doyu.jp/>

●登壇者紹介

コーディネーター：大槻眞一氏（阪南大学名誉教授）、パネリスト：フランシーヌ・ホワイトダック氏（カナダ ホワイトダック・リソース(株)代表取締役）、グエン・ティ・タン・ビン氏（ベトナム ビナス・トーンJV代表取締役）、ウー・ファイ・ファン氏（中国 厦門天能電子(株)取締役社長）、糸数久美子氏（日本 (株)ITAC代表取締役）、司会：平田美穂氏（中小企業家同友会全国協議会 事務局次長）

●分科会テーマの紹介

一国の経済の発展は地域経済の発展の積み重ねであり、地域おこしは、地域に密着し、経営をしっかりと確立させた中小企業が地域に存在すること、さらに経営者の間で信頼できるネットワークができるかどうか問われ、最後に行政の効果的なサポートが求められる。興味深いことに今年のAPECの関連会議は、「中小企業」と「女性」の2つがキーワードになっていると感じた。女性の経営者が今注目されているのは、女性がもっと社会に進出を果たし、政治経済にいい影響を与えて、地域を良くし、世界を良くしていくことが求められているからだ。「地域に根ざした企業経営における女性の力」について討論を深めたい。

●パネリストの発言概要

フランシーヌ・ホワイトダック氏

先住民族、農村部などの女性の連携を促し、貿易機会を創出している。カナダのケベックで先住民族とのネットワーク、アメリカの500部族とのネットワークがあります。現在、250品目を扱っている。「商品を持っている人」「売り場のある人」を結びつけ、地域において売買の場を作ってきた。先住民の天然素材の手作りの品は、時代にあっている、ビジネスチャンスになるのではない、そこでニッチな市場に注目し、ハイクオリティーの商品を提供し、付加価値を高めた。

グエン・ティ・タン・ビン氏

事業内容は天然石の採石、加工、設置。主にヨーロッパ、アメリカ、日本に輸出し、商業施設などに使われている。創業のきっかけは学校卒業後、務めたベルギーの会社の仕事がきっかけ。生まれ故郷ではその専門会社がなかったので、上司に会社を起業したいと言い、ベルギーの人と合弁会社を創設した。外国から石を輸入したのはベトナムでは当社が初めて。海外市場だけでなく、国内市場、ローカル市場に注目したのが成功した。

ウー・ファイ・ファン氏

業務内容は電子回路基盤実装。わが社の強みはお客様とのパートナーシップにある。そしてお客様の要望にこたえる社会企業であること。弱みは技術革新、人材育成に課題があること。企業が成長し、安定期に入ったら社会に還元することが大事で、会社の社会への責任をどう果た

していくのを考えている。将来的にはビジネスや人をつなぐ「プラットフォーム」を創りたい。中国と日本の架け橋、自分の夢を実現したい人への夢の応援をしていきたいと思う。

糸数久美子氏

(株)ITACでは、税理士業務以外の周辺業務を展開、事業承継や会計記帳業務などを行っている。会社理念は「幸せな生活の創造」。私は中小企業家同友会の理念と活動から多くことを学んだ。中小企業家同友会は「良い会社をつくろう、良い経営者になろう、よい経営環境をつくろう」の三つの目的と「自主・民主・連帯の精神」、「国民と地域とともに歩む中小企業」を理念としている。日本では雇用の70%が中小企業であり、中小企業の役割を明確にすることが雇用を守ることになり、地域や豊かな国民生活のために中小企業は重要であると考えている。

●まとめ

4人の報告者それぞれの事例で共通しているのは、地域に根ざした経営をしていること、女性の視点を活かした取り組みがなされているということであった。中小企業が雇用の受け皿であり、新しいサービスや技術の源であり、経済社会の発展に大きな役割を持っているという認識はいまや世界の常識である。日本でも中小企業憲章が作られた。今回のWLNでお互いに知り合い、自分の経営を安定させ、協力しあえるネットワークを広め、強めること、その成果を次回の2011年WLNで報告しあうことが大事である。

学生ボランティア

女性が仕事を通してキャリアを積んでいくことに関心・意欲がある学生から選ばれた学生ボランティアは、基調講演・パネルディスカッション・分科会のスピーカーのサポート、これらのセッション運営、展示の案内・通訳、事務局の補助等の業務に、熱心に取り組みました。

HPを通して6月に応募した147人の学生（短期大学生・大学院生を含む）の中から、応募動機等をもとにした書類審査、語学・意見交換による面接審査（東京・大阪）を経て、首都圏を中心に、北海道や関西の大学も含めて、64人（男性2人・女性62人）が選ばれました。

スピーカーのサポートを主に担当した学生は、スピーカー1人ずつに配置されました。受付で、担当スピーカーと会い、3日間のスケジュール

を確認し、各プログラム会場への誘導、担当スピーカーが登壇する分科会等の運営に関わるだけでなく、資料を修正したい、別のスピーカーとすぐに打合せをしたい等の直前の要望を、事務局へ確実に伝達し、迅速に対処しました。

事務局の補助を主に担当した学生は、ブース展示・販売展示にかかる案内・通訳、分科会等で同時通訳レシーバーや資料の配付、繁忙状況に応じて受付や開会式等の来場者誘導・座席案内のみならず、インフォメーションボードの伝達事項作成、スタッフの弁当配付、文化イベント団体が使用するハサミ等の危険物管理等に、率先して携わりました。

また、2日目夕方のエクスカッションでは、学生の希望をふまえ、9つのコースに12人の学生が同行し、

過半数を占める海外の参加者を主な対象として、通訳を含めた案内に加わりました。

さらに、一部の学生は、2日目夕方から夜にかけて開催された提言起草委員会に向けた準備、提言案のコピー・配付等、同委員会の円滑な運営に協力しました。

加えて、各々の業務の合間を活用して、セッションにおける各エコノミーのスピーカーによる活発な議論に、参加することができました。

本会合に出席したAPECエコノミーの女性リーダーと直接に接し、そのパワーを目の当たりにしたことで、「3日間が刺激的であり、将来を考える上で視野が広がった」「自分を見つめ直す最高の機会」等、将来を担う学生らしい感想が寄せられました。右ページは、3人の学生からの感想です。



閉会式後に会場で撮影された集合写真（左下はスピーカーの1人：アメロウ・ベニテス・レイエス氏）

大河原 里絵さん（早稲田大学）

私は、スピーカーの1人であるチリのエリザベス・ボン・ブランド氏を3日間サポートし、2日目の夕方、東京女子医大へのエクスカーションに引率しました。

WLNに学生ボランティアとして参加したことにより、経済・女性・将来という3つのキーワードを改めて考えさせられました。

まず、高校生の時にチリに留学した経験を持つ私は、同氏との会話の中で、日本とは比べ物にならない格差社会を目の当たりにしたことを思い出しました。それと同時に、安定した経済が社会の基盤作りに必要不可欠であり、チリの今後の発展を垣間見た気がしました。

次に、基調講演、パネルディスカッションや分科会にも一部参加でき、まだまだ男性中心社会である日本を含めたAPECエコノミーにおいて、女性が経済活動に参画し、起業やキャリア形成への意識を高めていくことは、全世界に共通する重要課題であると考えようになりました。

また、世界をリードしている女性達が集ったWLNにて、自分が将来自立した女性として、どのような形で社会に貢献していけるかを念頭に置きながら、さまざまな方の考え方、生き方から良い刺激を受けました。

大学に入学し、勉学に励む以外の自由な時間を如何に過ごすかを模索していた私にとって、WLNでの経験は実際に将来社会で活躍する一女性として、経済とどう関わっていくかを考える絶好の機会となりました。

岡田 加奈子さん（関西外国語大学）

私は、学生ボランティアとして、WLNに2日間参加しました。私の仕事は、主に事務局補助であり、会場内の案内・誘導や通訳などでした。また、東京電力のショールームへのエクスカーションに同行し、海外からの参加者に対する通訳等も担当しました。

私がWLNに参加しようと思ったきっかけは、海外で活躍されている女性リーダーや、他大学の学生と関わることに興味を持ち、もっと社会のことも知りたいと思ったからです。

そんな中、WLNへの参加に向けて「女性と経済」について調査・準備していくうちに、他国と比べて日本ではまだまだ女性が経済活動において活躍しにくい状況があることを知りました。

何事においても、意識を変えるには時間がかかると思いますが、まずは女性自身が行動を起こさなくてはならないと思います。今回参加された各国・各地域の女性リーダーたちはさまざまな分野で活発に活動されているパワフルな方々で、積極的にネットワーク作りをされていた姿に大変刺激を受けました。私も将来はこれらの方々に続き、経済活動に積極的に参加し、社会や人々にいい影響を与えられるようにになりたいと思いました。

女性にとって活動しやすい社会＝男性が活動しやすい社会だと思うので、女性が活躍できる社会にするためには何が求められているのか、などの知識を増やしていきたいと思います。今回のWLN参加は私にとって大変貴重な経験になりました。

棚田 壮太さん（横浜市立大学）

私は、今年2月にシアトルへ留学した際、米国APEC本部（NCAPEC）で6ヶ月間のインターンを経験しました。NCAPECは、民間企業、米国政府とAPECとの懸け橋となりアジア太平洋地域における経済関連問題を扱っています。係った全ての業務を通じAPECの影響力、重要性を強く感じていたところ、WLN会合と出会う機会にも恵まれました。

今回の会合では、私は米国代表であるパトリシア・フォレイ・ハイネン氏のサポートをしました。同氏は貧困者向けの融資であるマイクロファイナンスの専門家として世界中を飛び回り、社会的地位や信用度の低さから融資を受けられず苦しむ女性達にビジネスチャンスを与える活動を続けています。

3日間を通して、時間の許す限り、自らの経験を参加者と共有、共感する同氏のバイタリティに圧倒されました。パネルディスカッションでは、男尊女卑が強く残る途上国でも輝き活躍する女性たちの話を、同氏が紹介し参加者に大きな勇気を与えたと思います。また、提言起草の議論では、自らのビジネス経験を活かし、実現性の高い提言へ大きく貢献し、そのスマートな論理展開に感銘を受けました。

今回の会合に係られた多くの素晴らしい方々がいる限り、女性を取り巻く環境は今後も更に改善されていくと確信しています。この経験を活かし、同氏のように、自分という存在が社会や人々に良い影響を与えられる人間になれるよう、今後も努力していきたいと思っています。

歓迎レセプション、ネットワーク昼食会、夕食会

WLN会合では、参加者や関係者の交流とネットワークを作るため、様々な文化イベント等を取り入れた歓迎レセプション、ネットワーク昼食会、夕食会を開催しました。

○歓迎レセプション（1日目）

岡崎トミ子内閣府男女共同参画担当大臣からの歓迎挨拶に引き続き、岡崎大臣、前回開催のシンガポール代表のYu-Foo Yee Shoon氏、次回開催のアメリカ代表のLorraine Hariton氏、WLN実行委員のアキレス美知子氏による鏡開きが行われました。



その後、蓮舂内閣府特命担当大臣から、歓迎とWLN会合での参加者の交流及び今後の活躍への激励を込めた乾杯で歓迎レセプションが始まりました。

来賓として、APECビジネス諮問委員会（ABAC）日本委員である相原元一郎氏、APEC高級実務者会合議長である中村滋氏と西山英彦氏が参列され、ご挨拶をいただきました。

その後、「なにわケミカル・ハーモニー」による箏、三味線、尺八の合奏から歓談が開始されるとともに、宇宙飛行士の山崎直子氏からの

ビデオメッセージが流されました。



さらに、「河乃裕季と和太鼓 飛翔」による勇壮な和太鼓の演奏、そして「大江戸東京音頭連」による『東京音頭』と現代風にアレンジした『大江戸東京音頭』が披露され、日本の文化にふれつつ、ネットワークを広げる場となりました。



○ネットワーク昼食会（2、3日目）



2日目、3日目のネットワーク昼食



1日目の受付時に歓迎を込めて、「NPO法人静岡県男女共同参画センター交流会議」による静岡茶の提供がされました。

会では、2日目は国井秀子WLN副実行委員長からの昼食会の歓迎挨拶の後、「J300・アジア女性経済会議」による『日本舞踏家とライブペインターのライブコラボレーション』、3日目は高松和子WLN実行委員から昼食会の歓迎挨拶の後、「京都府、『きものの似合うまち・京都』実行委員会」主催（協賛：株資生堂）による『KIMONO Collection from KYOTO』と題した着物ファッションショーが華やかに行われました。

参加者からは、感動的だった、会合の合間のリフレッシュになったといった感想が寄せられました。

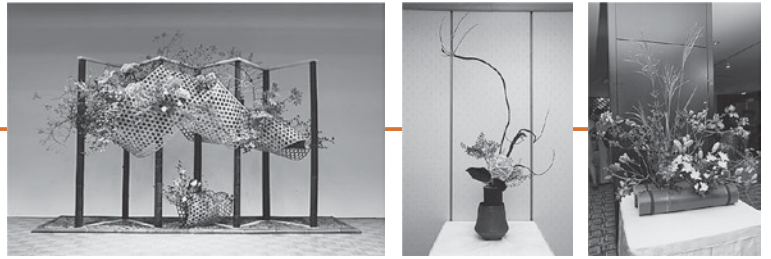


○夕食会（3日目）

最終日3日目の夜、末松義規内閣府副大臣から挨拶と北城恪太郎WLN副実行委員長の乾杯の発声により夕食会が開始されました。

歓談の後半には、「CHIよREN北天魁」、「REDA舞神楽」の2グループによる『よさこい鳴子踊り』の披露がありました。





本会場ステージ中央や、受付場所等随所に「一葉いけ花」によるいけ花を飾り、参加者に日本文化の美しさを紹介し、多くの方々の撮影スポットになりました。



続いて「高円寺阿波踊り 江戸っ子連」による『阿波踊り』の披露があり、参加者は、日本の踊りの迫力と楽しさに触れ、踊り出す人の輪もでき、国内外の参加者の交流が図られました。



最後はバンド演奏とともに、参加者が踊って、WLNの会合の最後を締めくくりました。

エクスカーショ

WLN会合2日目の夕方には、東京都内の興味深い施設や観光地を訪れ、会食と懇談を行うエクスカーショを実施しました。(エクスカーショは表1のとおり)

表1：エクスカーショの一覧

企 画 名	実 施 団 体
1 四季を活かした日本のくらし体験ツアーーショールームで快適・省エネスタイルと秋の味覚を楽しむ	東京電力株式会社
2 文化学園服飾博物館ツアーとてんぶらを楽しむ	NPO法人 J-Win (ジェー・ウィン)
3 東郷青児美術館でのゴッホの「ひまわり」等名画鑑賞と新宿での和食ディナー	NPO法人 J-Win (ジェー・ウィン)
4 浅草寺界隈散策と富永照子浅草おかみさん会会長の講演、会食	協同組合 浅草おかみさん会
5 植物と共生するオフィスと植物工場の見学	ザ・スティービー・アワード日本事務局 (The Stevie Awards Japan)
6 多文化共生の街・女性たちがつくる東京都北区発のコミュニティ・ビジネス	参画ネット・ノースヴィレッジゆう
7 東京タワーから、首都・東京の夜景を楽しみましょう	一般社団法人 日本女性薬剤師会
8 東京女子医大探訪ー日本の近代女性医師のバイオニア 吉岡彌生の残したものー	社団法人 日本女医会
9 六本木での東京シティビューと和風居酒屋ディナー	京王プラザホテル

活動展示と写真展示

WLN会合では、男女共同参画関連団体等がその活動を紹介する展示を行いました。(実施団体等は表2のとおり)



また、APECメンバーエコノミーで活躍する女性及び団体の写真の展示も行い、ご自身の写真の前で撮影する姿も見られました。



表2：活動展示の一覧

企画名	実施団体
1 国連女性開発基金 (UNIFEM) の紹介	ユニフェム (国連女性開発基金) 日本事務所
2 エコツーリズムってなに？	NPO法人 日本エコツーリズム協会 (JES)
3 設立108年目を迎える日本女医会の歴史と活動	社団法人 日本女医会
4 日本女性薬剤師会の活動についてー生活・環境保全、少子・高齢社会の医療、福祉を担う人財育成ー	一般社団法人 日本女性薬剤師会
5 Startup Project in Japanーものづくり・技術分野で、開発・起業に向かう日本の女性たちー	AWEC (アジア女性経済会議)・J300・Bridge2010
6 日本ヒーブ協議会の活動ー生活者と企業のパイプ役としてー	一般社団法人 日本ヒーブ協議会
7 霊峰富士山と輝く女性たち	NPO法人 静岡県男女共同参画センター交流会議
8 女性たちによる消費者運動と企業の発展	全国地域婦人団体連絡協議会 (全地婦連)
9 農林水産業と農山漁村を元気にしている女性達の活躍	社団法人 農山漁村女性・生活活動支援協会
10 北京会議から15年ー国立女性教育会館女性アーカイブセンター所蔵資料よりー	独立行政法人 国立女性教育会館
11 日本における女性関連施設の紹介	独立行政法人 国立女性教育会館

※このほか、海外から、中国香港、シンガポール、チャイニーズ・タイペイ、タイの展示があった。

WLN提言の採択

WLN会合中に開催された提言起草委員会での議論を経て、会合最終日にWLN提言が採択されました。今回の提言の特色は、APECエコノミー共通の指標を設定し（提言17参照）、今後フォローしていくことを打ち出したことです。

WLN提言は、9月23日に開催された第8回GFPN会合、10月1日に開催されたWES及び10月2、3日に開催されたAPEC中小企業大臣会合において発表されました。また、提言を踏まえた女性の活躍の重要性について、APECのハイレベル会合の成果物に反映されました。首脳宣言では「ビジネス及び政府における女性の起業家精神及びより大きなリーダーシップを促進する」と、閣僚声明では「女性のエンパワーメント」という項目において「3本柱からなるWLN提言を歓迎する」と、成長戦略では「あまねく広がる成長」の達成のため「『女性のための新たな経済機会の創出』に焦点を当てる」と、中小企業大臣会合共同声明では、女性の中小企業・起業家支援を強調した「WLN提言を認識する」と、記載されました。

首脳宣言等の全文は、APEC JAPAN 2010のホームページをご覧ください。

<http://www.apec2010.go.jp/docs/>

【APEC首脳および閣僚へのWLN提言（仮訳）】

2010年9月19から21日にかけて、第15回APEC女性リーダーズネットワーク会合が東京で開催され、産業界、政府、学界、市民社会及び先住

民の男女500人以上が集まり、「女性による新たな経済活動の創造—人・自然・文化を活かす—」をテーマに議論を行った。

WLNはAPEC首脳および閣僚に対し、アジア太平洋地域への女性の経済・貿易面での多大な貢献を評価し、以下の3点を柱とする政策提言の実施を通じ躍動的かつあまねく広がる成長を促すよう要請する。

- ・組織における女性のキャリア構築
- ・人・自然・文化を活かした女性による起業の実現
- ・女性のための新たな経済機会の創出（「女性のエンパワーメントのための指針」の推進が可能となる環境の構築を含む）

組織における女性のキャリア構築 [幹部役員への女性の登用]

1 民間部門と協力して、目標設定や進捗状況の報告等、女性の管理職、リーダー、役員の昇進を促し、加速させる取り組みを行う。

[能力開発—教育・訓練]

2 女性への継続教育、職業訓練、生涯学習を強化する。特に女性の（再）就業のための訓練を実施し、これらの訓練への参加を高める。こうした訓練プログラムに関する情報を普及させる。

[科学技術分野の女性]

3 民間部門と連携して後ろ向きの固定観念を廃し、科学技術分野の教育を受けた女性の雇用機会を増やし、存在感を高め、成功を促す。

[労働環境の整備]

4 フレックスタイム制や女性と男性が家族責任を分かち合うことを促すその他の取組等、ワーク・ライフ・バランスを実現する適切な政策の策定を通じ、女性が働き続けるこ

とを可能にし、かつ奨励する。

人・自然・文化を活かした女性による起業の実現

[資金調達]

5 女性の資金調達は、全てのAPECエコノミーにおいて依然として大きな課題である。WLNは首脳及び閣僚に対し、公的融資、エクイティ・ファイナンス、マイクロ・ファイナンスなどの多様な金融商品・サービスへの女性のアクセス向上に向けた取組を強化するよう要請する。法規制の障害の除去を通じ、インフォーマル・セクターも含めた女性が経営する中小企業、零細企業に対する新たな形の資金調達を拡大する。

[零細・中小企業の起業家支援]

6 WLNは各エコノミーに対し、女性の起業支援を含む戦略的な行動計画の策定を促す。

7 官民連携を通じて女性の起業推進に向けた取組を強化し、ビジネスが可能となる環境を整備する。WLNは、様々なAPECフォーラムが現在実施しているビジネス環境改善（EoDB）プログラムを評価し、少女を含む女性起業家を対象に、知識集約型経済で求められるスキルを向上させるプログラムの更なる実施を提言する。

8 意識啓発と調達機会に関する研修の提供を通じ、企業、政府、国際市場およびグローバル・バリュー・チェーンへの女性の参加を促進する。

[社会的起業支援]

9 自然環境や伝統的知識を搾取することなく、自然・環境・文化面の地域の特徴を活かしたビジネスを推進する。

10 社会的起業に関する研究を実施し、社会的起業家になりうる人の



第8回APEC男女共同参画担当者ネットワーク (GFPN) 会合

教育訓練を行い、社会的起業という分野に参入するためのインセンティブを策定する。

女性のための新たな経済機会の創出 [経済の牽引役としての女性]

11 APECエコノミー間の地域経済・社会・市場の域内統合を推進するあまねく広がり持続可能な成長を促す指針として、国連婦人開発基金 (UNIFEM) と国連グローバル・コンパクトが発表した「女性のエンパワーメントのための指針」(WEPs) を支持する。

12 昨今の金融危機や自然災害に対応し逆境をチャンスに変える上での、先住民女性を含む女性の役割と能力を評価する。

[イノベーションと情報通信技術 (ICT)]

13 情報通信技術 (ICT) への平等なアクセスを確保し、経済的エンパワーメントの手段としてICT活用の技術的ノウハウを学習し、習得したいと望む女性への支援を行う。

[ジェンダー主流化]

14 APECエコノミーにおいて男女別統計の収集、分析、普及を行う能力を高め、得られたデータを政策立

案者の男女格差に関する意識啓発に活用する。これにより、政策の改革による男女別影響に対して理解を一層深めることができる。

[ネットワークの構築]

15 女性の積極的な経済参加を促すため、特に女性が携わることが少ない科学や技術、起業などの分野で、組織内、エコノミー内及び国境を越えたネットワークづくりの機会を促進する。経済団体に対し、女性を対象とする視察や交流プログラムを企画するよう促す。

16 APEC ビジネス諮問委員会 (ABAC) では、女性は未だ過少代表となっている。WLNは首脳に対し、各エコノミー最低1名は確実に女性をABAC委員に任命するよう要請する。

[前進への活路]

17 上記提言の実施を促すため、WLNは、男女共同参画担当者ネットワーク (GFPN) に対し、中小企業作業部会と協力して、以下の進捗状況 (女性の数または比率) についての主要実績評価指標 (KPI) を「APECにおける女性の統合のためのフレームワークの実施報告書」に

盛り込むよう要請する。

1. (上場) 企業における役員
2. 中小企業オーナー
3. APEC ビジネス諮問委員会 (ABAC) メンバー

上記データの入手が不可能な場合、これに代わる具体的な施策の実施状況を報告すべきである。

WLNは、GFPNに各エコノミーにおける本提言の実施状況の監視について助力を求めるとともに、次回及び今後のWLN会合でGFPN議長がその活動について報告を行うよう要請する。

WLNは、2011年9月にサンフランシスコで「女性の経済的エンパワーメントに関するハイレベル政策会合」を開催するという米国の提案を歓迎する。

WLNは、本会合を開催した日本に感謝し、また第16回WLN会合の開催を申し出た米国に対し謝意を伝えたい。

※WLN提言の英語原文については、WLN会合ホームページをご覧ください。<http://www.apecwln2010.jp/pdf/proposal.pdf>

GFPN会合

男女共同参画担当者ネットワーク (GFPN) は、2002年にメキシコで開催されたAPEC女性問題担当大臣会合における大臣共同声明に基づいて設置されたフォーラム (委員会) です。APECの活動において持続的かつ効率的に女性の参画を促進し、男女共同参画の視点を反映させていくために、経済・技術協力運営委員会 (SCE) に対して、毎年、報告・

提言を行うとともに、APEC各フォーラムに対して政策的・実用的な助言を行うなどの役割を担っています。

本年は、日本がAPEC議長であることから、今年で8回目を迎えるGFPN会合が日本において初めて開催されました。本会合は、日本でGFPNを担当している内閣府男女共同参画局の主催で、9月23日に埼玉県嵐山町の国立女性教育会館において開催され、12エコノミーから48

名の男女共同参画担当者が参加しました。

本会合では、武川恵子内閣府官房審議官が議長を務め、GFPNの活動成果、新たな課題、今後の方向性について議論が行われたほか、各エコノミーから男女共同参画に関するエコノミー内の進捗状況の報告が行われました。また、会合の最後にSCEに対する報告・提言を採択しました。次回のGFPN会合は来年9月にアメリカで開催される予定です。

ワークライフ・マネジメント実践術⑧ 組織全体に浸透させる方法の実例-鳥取県庁

株式会社東レ経営研究所ダイバーシティ&
ワークライフバランス研究部長

渥美 由喜

現場の主体性を引き出す

WLMのキーワードは『働き方の見直し』だが、現場に「やらされ感」が漂わないように注意すべきだ。そのためには、最初から解決策・他社事例を紹介しないで、ワークショップ等を活用して現場の主体性を引き出すといい。

また、部署のメンバー全員で職場の業務を洗い出して、再検討する場を設定する方がうまくいく。各人ができる範囲で、気付いた小さな改善を積み重ねてもらいたい。改善の結果、実際に業務が進めやすくなり、自分たちが楽になると気付くと、自主的にどんどん取組みを深めていくものだ。

以下、鳥取県庁の取組みをご紹介します。

1年で時間外を3割減らした鳥取県

先進自治体として名高い鳥取県だが、昨年からWLBの浸透と現場の業務改善を進めてきた。

筆者は県政アドバイザーを拝命しているご縁があり、昨年度からワークライフバランス推進コンサルタントとしてサポートしてきた。今年度からは、中部産業連盟のコンサルタントの方々も加わり、トヨタ方式で業務改善を指導なさっている。今年度当初には、平井知事が時間外勤務縮減に本腰を入れると宣言し、本年5月から『スマート県庁55（ゴーゴー）プロジェクト』を開始し、全職員の業務効率を5%向上させることで、2年間で時間外勤務を半減させることを目指している。

出発式をメディアに公開したり、国の労働局の方々も業務改善研修に参加するなど、庁外にもかなりオープンな形で

進めている点が特徴的だ。

そして、「午後4時以降の新たな指示の禁止」「職員の時給を表示し、労働コストを意識した働き方の推奨」などの取り組みを進めている。鳥取県には、約300の部署があるが、各部署の管理職、補佐職クラスを対象に研修を実施し、40人を「カイゼン推進員」に任命した。さらに、成果を県庁内で横展開するため、3つのモデル職場を選定した。

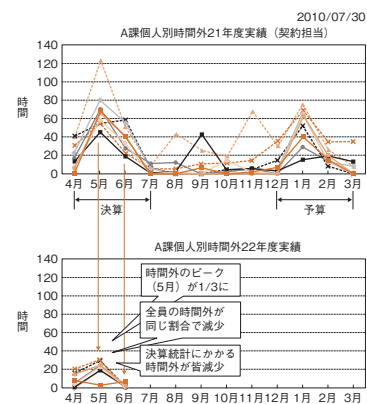
こうした取組みの結果、全部署の7割で「気づいたところから改善」がなされたという。例えば、①会議のムダ（目的が曖昧、参加者数や回数が過剰）、②資料作成のムダ（会議用資料の余剰、コピー機前の待機）にメスが入られた。7月末時点で時間外勤務は対前年比35%と大幅に縮減した。

「庁内の資料が過剰品質となりやすいことに気づいた」「定時で帰りにくい雰囲気なくなった」「暗黙知をみんなで洗い出して、良いことは真似をする雰囲気が生まれた」「自分たちが楽になるとわかった」等の変化が起きている。

今後の課題としては、積極的に取り組もうとする前向きな職場もある一方で、「やらされ感」「上すべり感」が依然としてあり、「職場による取組の差」が生じてきている。特に、管理職がカイゼンに懐疑的な職場や職員自身が、自身を楽にする取組（カイゼンの本質）だと理解していない職場においては、消極的といった点が挙げられる。

こうした点を踏まえ、来年度はワークライフバランスとの両輪、一般職員向けのカイゼンに関する研修、全庁的課題に対する優良な取組事例を横展開が計画されている。

図表1 鳥取県モデル部署の時間外勤務の変化



【A課の取組み】

- ①仕事の標準化
 - ・仕事の分担
 - ・仕事のシェア⇒ 余裕のある職員、非常勤職員へ
- ②仕事の見極め
 - ・ムダな作業は止め、後でもいい作業は後回し
- ③品質は確保されているか？
 - ・決算の時期の作業であり、先送りなどではなく、実効数字（品質は確保されていた）
- ④今後の予定
 - ・今後は、業務の標準化（マニュアル化）にも取り組み、より普遍性かつ効率的な方策を行う。



あつみ・なおき／東京大学法学部卒業。複数のシンクタンクを経て、2009年東レ経営研究所入社。内閣府『ワークライフバランス官民連絡会議』『子ども若者育成・子育て支援功労者表彰（内閣総理大臣表彰）』委員、厚生労働省『イクメンプロジェクト』委員等の公職を歴任。

厚生労働省

女性の能力を発揮させるための積極的な取組（ポジティブ・アクション）や、仕事と育児・介護との両立を支援する取組で他の模範となるような企業を、厚生労働省では平成11年度から表彰しています。

表彰によりその取組を広く周知し、男女ともに職業生活の全期間を通じて持てる能力を発揮できる職場環境の整備を促進するのが狙いで、今年度の厚生労働大臣最優良賞には「日本アイ・ビー・エム株式会社」（東京都）が選ばれました。

このほか、均等推進企業部門厚生労働大臣優良賞を6社、ファミリー・フレンドリー企業部門厚生労働大臣優良賞を2社が受賞し、10月19日（火）に「企業経営とこれからのポジティブ・アクションを考えるシンポジウム」の開催に併せ、厚生労働大臣賞表彰式を行いました。

受賞企業は以下のとおりです。

◇厚生労働大臣賞

○厚生労働大臣最優良賞

日本アイ・ビー・エム株式会社（東京都）

女性の活躍推進に向けた取組を常に見直し、また、男性の育児休業取得促進等の両立支援対策に取り組み、成果を上げている。個人の能力を最大限に発揮できる環境整備を推進

○厚生労働大臣優良賞

【均等推進企業部門】

朝日生命保険相互会社（東京都）

「活力ある人材の育成と能力発揮」の観点から女性のキャリアアップに取り組む

住友生命保険相互会社（東京都）

「女性活躍サポートデスク」を設置し女性の活躍推進関連の情報提供等を行うことにより女性のキャリアアップを支援

東京電力株式会社（東京都）

女性社員が更に活躍できる環境づくりを目指し、会社一体となって条件整備に取り組む

三菱UFJ信託銀行株式会社（東京都）

やる気があればさまざまなことにチャレンジし、自分の希望に沿って活躍できる仕組みを充実

株式会社りそな銀行（大阪府）

経営直轄の諮問機関「りそなウーマンズカウンスル」により女性の意見を経営に反映、働きやすい職場環境の整備を推進

株式会社 広島銀行（広島県）

人的戦力強化による「攻め」の体制整備の一環として、女性の活躍推進に取り組む

【ファミリー・フレンドリー企業部門】

サノフィ・アベンティス株式会社（東京都）

従業員で組織された「ラ・メゾンプロジェクト」により両立支援に関する職場環境改善活動を推進

三菱UFJ信託銀行株式会社（東京都）

従業員で組織された「ワークライフバランス支援連絡会」の答申に基づき、きめ細かな両立支援施策（ワークライフバランス10）を導入

◇都道府県労働局長賞

○均等推進企業部門 18社

○ファミリー・フレンドリー企業部門 16社

厚生労働大臣賞の取組内容、都道府県労働局長賞の詳細については、厚生労働省HPをご覧ください。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000000sww8.html>



平成22年度 女性のライフプランニング支援総合推進事業 「はたらくくらす見つめよう私のライフプランニング」ワークショップ開催

文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課

文部科学省では、女性のライフプランニング支援総合推進事業を実施しており、この一環として、福岡大学にご協力いただき、学生に向けてワークショップを開催しました。

ワークショップは、中村信博福岡大学就職・進路支援センター長及び高口努文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課長の挨拶から始まり、「「女性が働く」ということ」をテーマに、三菱UFJリサーチ&コンサルティング 経済・社会政策部公共政策グループ主任研究員であり、女性のライフプランニング支援総合推進委員会委員である、矢島洋子氏に講義いただきました。

講義では、ご自身のこれまでの働き方やそれを支えてくれた職場の話から、女性の働き方の希望と現実にはギャップがあること、職業を続けることに対し、男性の意識の方が急速に変化していること〈グラフ〉など女性の置かれている現状についての説明がありました。また、女性が結婚や子育てしながら働き続け、キャリアアップしていくことを支えるために、仕事と家庭の両立支援や雇用機会の均等施策、そして、男性も含め、働き方の見直し（ワーク・ライフ・バランス）に係る施策が揃ってきたこと、女性自身は、社会や企業が変わってきたことを知り、この状況を生かした選択をすることやきちんと自分に合った「企業を選ぶ目」を持つことが必要であること、このために、女性はライフイベントを踏まえた、長期的な視点で、ライフプランニングを持つことが大切であり、それは、何か壁にぶつかったり、迷ったりした際に見直していくことが重要であることな

どのお話がありました。

続いて、福岡大学の卒業生である、田中奈緒美氏（株石村萬盛堂）、村岡麗氏（株地域情報センター「ふくおか経済」）のお二人をロールモデルとして迎え、矢島氏のコーディネートにより、学生の頃から働くことや自分が積んできたキャリア等の体験を語っていただきました。そして、学生へのメッセージとして、田中さんからは、育児をしながら仕事を続けてきた経験から、「会社が女性の活躍を後押ししてくれるので、自分に合った会社を見つけてほしい、たとえ知らない会社であっても話を聴きに行ってみてほしい」、村岡さんからは、「これまで仕事をして気づいたことは、何かを始めることはもちろん、自分自身で始めたことを続けることが大切だと感じた。就職活動でも仕事でも続けていくことで自分自身の道がみえてくる」との言葉がありました。

最後は、学生からワークショップを振り返って、「育児休業や短時間勤務などの制度について知ることができ、この点にも着目して就職活動をしていきたい」と思います。」という気づきについて意見がありました。

このワークショップのアンケートには「男性と女性の働き方の違いなんて今まで考えたこともなかったので、話が聞けて良かった」「私の今後の人生観について考え直すきっかけとなった」などの感想がありました。

今回のワークショップを参考に、他の大学等におかれても、ライフプランニングの視点をもって進路指導等を行っていただけると幸いです。

【福岡大学概要】75年を超える歴史と伝統を有する西日本有数の総合大学です。福岡市の南西部に広大なキャンパス空間と多くの建物施設を擁し、9学部31学科と大学院10研究科33専攻、2万人を超す学生数を抱える地域の拠点大学となっております。

ホームページ <http://www.fukuoka-u.ac.jp/>



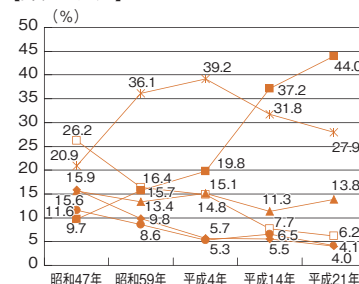
矢島洋子氏による講義



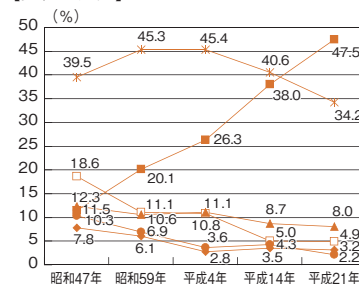
ロールモデルによる体験談
(左から田中さん、村岡さん)

○ グラフ「一般的に女性が職業を持つことに対する意識変化」

【男性の意識】

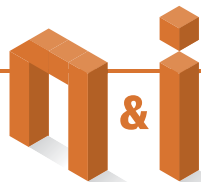


【女性の意識】



- 女性は職業をもたないほうがよい
- 結婚するまでは職業をもつほうがよい
- ▲ 子どもができるまでは職業をもつほうがよい
- 子どもができてもずっと職業を続けるほうがよい（継続就業）
- ✱ 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい（一時中断・再就職）
- わからない

出典：内閣府「男女共同参画に関する世論調査」



[News & Information]

1

News

国立女性教育会館

「平成22年度アジア・太平洋地域の女性リーダーエンパワーメントセミナー」実施報告



国立女性教育会館は、9月30日（木）～10月9日（金）の日程で「女性リーダーの育成～日本の経験から考える」をテーマとして、「平成22年度アジア太平洋地域の女性リーダーエンパワーメントセミナー」を開催しました。今年度は11カ国の国内本部機構、研究機関、NGOで勤務している14名の研修生が参加し、日本国内の行政機関や、大学等を訪問し、男女共同参画に関する政策と最新の取組を学びました。

また、静岡市への研修旅行では、市内の女性関連施設を視察し、地域で活躍している女性リーダーとの意見交換会も行いました。

研修生一行は、10月9日に都内で開催された「女性のエンパワーメント国際フォーラム」のパネル・ディスカッションとポスターセッションに参加して、10日間の研修成果を報告しました。研修生からは、「各国の女性リーダー育成を俯瞰することができた貴重な機会となった」という意見が寄せられました。

2

News

国立女性教育会館

平成22年度「配偶者からの暴力被害者支援応用セミナー」実施報告

国立女性教育会館では、10月7日（木）～8日（金）にかけて、平成22年度「配偶者からの暴力被害者支援応用セミナー」を1泊2日で実施しました。

これは、内閣府の委託を受け、全国の配偶者暴力相談支援センターや男女共同参画センター等で相談を行う職員を対象に、配偶者からの暴力に関する様々な事象への的確な対応や配慮事項についての専門的・実践的な研修を行うものです。

セミナーでは、全国から参加した70名の参加者が配偶者からの暴力被害の現状や相談の受け方などについて、相談現場の第一線で活躍する講師から講義や事例検討を通して学び、参加者同士が活発に意見交換をする姿が見られました。

具体事例を基に、相談者への対応を多様な視点から考えるスーパービジョン体験も行いました。スーパーバイザーの指導を受けながら相談者への対応を検討し、実務に活かせるヒントを得ることができました。

セミナー参加者からは、「多方面の学びを通して、新たな気づきや視点を持つことができた」「今後の相談業務に役立つ内容だった」という感想が寄せられました。

3

News

国立女性教育会館

平成22年度「女性関連施設相談員研修」実施報告

国立女性教育会館では、10月7日（木）～9日（土）にかけて、平成22年度「女性関連施設相談員研修」を2泊3日で実施しました。

本研修では、女性のエンパワーメントを支援し、様々な女性の悩みに対応する相談員の技能の向上を図ることを目的に、専門的な知識の取得と実践に役立つ技能の向上を目指し、講義やワーク、実践に基づいたディスカッションなどを行いました。参加者は、同時期に開催した「配偶者からの暴力被害者支援応用セミナー」も受講し、男女共同参画社会形成に向けて解決すべき課題である配偶者からの暴力についても、講義や事例検討を通じて理解を深めました。

女性関連施設における相談からは地域女性の様々な悩み、課題がみえてくるため、相談や対応の工夫に加えて、センターの事業につなげる試みも報告されました。最後の全体会では、これからの地域女性のエンパワーメントのためには、相談業務の質の向上や、相談員が果たす役割がとても重要であることが話し合われ、共にがんばろうという意欲を分かち合いました。

参加者からは、「講師が素晴らしい方ばかりで参加できてよかった」「相談員のエンパワーメントにつながり、有意義だった」「自分の仕事の意義と責任を確認することができた」という感想が寄せられました。

4

News

内閣府

男女共同参画宣言都市奨励事業（松江市）



10月16日、島根県松江市において、内閣府との共催で男女共同参画宣言都市奨励事業「松江市男女共同参画宣言都市記念式典」が開催されました。

オープニングの松江ブラバ少年少女合唱隊による合唱で幕を開けた記念式典では、松江市男女共同参画宣言文の宣誓が行われ、市民一人ひとりが性別にかかわらず、ともに支えあい、いきいきと暮らしていける松江市を目指すことを誓いました。

続いて、内閣府から男女共同参画の現状や政府の取組等について報告があった後、日本女性会議2011松江大会のシンボルマーク入賞者表彰が行われました。

さらに、株式会社東レ経営研究所特別顧問の佐々木常夫氏により、「私にとっての会社・仕事・家族」と題した記念講演が行われ、家族や人との関わり方、仕事の責任や進め方についてご自身の経験をもとにわかりやすく語られました。参加者からは、「タイムマネジメントは『時間の管理』ではなく『業務の管理』であるという発想に驚いたがぜひ実践していきたい」、「家族のあり方について考えさせられた」といった感想が寄せられました。



[News & Information]

5 News

内閣府

男女共同参画フォーラム（沖縄県）を開催



内閣府は10月23日、沖縄県及び全国男女共同参画フォーラム2010 in 沖縄実行委員会との共催で「全国男女共同参画フォーラム2010 in 沖縄」『夢をかたちにして ～まじゅんちゅくらな～』を開催しました。

主催者挨拶に続き、内閣府から男女共同参画の現状等について報告した後、(株)カルティバート代表取締役社長の開梨香氏より「夢をかたちにして」と題した基調講演が行われ、学生時代からの就労経験、その後のキャリアの転機、また、仕事を通して関わった地域おこし、人材育成を行う中で、仕事への思いを強くされた経緯をお話されました。

さらに、琉球大学准教授の内海（宮城）恵美子氏のコーディネートのもと、農家民宿津嘉山荘経営者の津嘉山千代氏、(株)アイリスエステサロン代表取締役の新城恵子氏及び(株)コンピュータ沖縄代表取締役の名護宏雄氏による女性の経済参画等についてのパネルディスカッションが行われ、宮古島のエコツーリズムや島おこしの報告、「育児休業後、復職した職員が、後輩へ円滑な仕事の仕方、生活の相談に応じる等、お互いに助け合う社風が生まれた。」との報告がありました。

7 News

国立女性教育会館

平成22年度女性情報アーキビスト入門講座を実施

国立女性教育会館は、10月27日～28日の1泊2日で「女性情報アーキビスト入門講座」を実施し、37名が受講しました。海外の女性アーカイブ紹介、著作権に関する講義など、7つの講義・報告から構成された講座は、女性アーカイブの整理・保存から公開・活用までの基礎的な知識を得ることができたと受講者に好評でした。情報交換会では、アーカイブ活用の一事例として、こがね女性ネットワークによるフォトムービー『写真でたどる小金井の女性たち』の上映が行われ、参加者、講師相互の交流が深まりました。

8 Info

内閣府

男女共同参画フォーラム in 仙台（仙台市）

日時：平成23年1月29日（土）13：00～16：20

場所：仙台国際センター 橋
（宮城県仙台市青葉区青葉山無番地）

主催：内閣府、仙台市

内容：内閣府報告、基調講演、パネルディスカッション
参加方法：申込必要、先着順（託児を要する場合は要予約）

問合せ先：仙台市市民局市民協働推進部男女共同参画課

TEL 022-214-6143 FAX 022-214-6140

E-mail sim004180@city.sendai.jp

6 News

内閣府

男女共同参画フォーラム（奈良県）を開催



10月29日、奈良県との共催で、「男女共同参画フォーラム in 奈良」『いっしょに考えてみませんか「私らしい働き方、暮らし方」を』を開催しました。

主催者挨拶に続き、内閣府が男女共同参画の現状等について報告した後、「日経ウーマン」編集長の麓幸子氏より「女性が輝く社会の条件とは～企業、家庭、地域、そして女性自身に必要なこと～」をテーマに基調講演が行われました。麓氏は「記者」、「サラリーウーマン」、「管理職」の3つの立場から、女性を輝かせるために解決すべき「企業」、「地域・家庭」、「女性自身」の問題についてお話されました。

さらに、奈良県男女共同参画県民会議会長の音田昌子氏のコーディネートのもと、麓氏、共同精版印刷(株)代表取締役社長の近東宏光氏及び(株)呉竹総務経理チームリーダーの山際義敬氏による同テーマでのパネルディスカッションが行われ、それぞれの企業での具体的な取組を交えながら、これからの課題などについて積極的な意見交換が行われました。

来場された方々は、これからの社会での働き方、暮らし方について関心を持たれ、熱心に聞き入っておられました。

9 Info

女性と仕事の未来館

①「働く女性エンパワメント支援セミナー」

働く女性支援事業に携わる方対象の研修会です。

日時：平成23年1月21日（金）10：30～17：00

対象：全国の女性関連施設職員、他 定員50人

- ・若年女性の職業選択やキャリア意識を学ぶ（講演）
奥津真里（（独）労働政策研究・研修機構特任研究員）
- ・ファシリテーションスキルを学ぶ（ワークショップ）
小林京子（（有）ヒューリス代表）

②シンポジウム「働く女性のこれからを考える」

女性労働の専門家が、非正規雇用や格差等の問題を通して働く女性の現状を浮き彫りにし、解決策を検討します。

日時：平成23年1月22日（土）13：00～17：00 定員250人

- ・基調講演 鹿嶋 敬（実践女子大学 人間社会学部教授）
- ・ディスカッション ＊モデレーター 渥美雅子 未来館館長 福沢恵子（ジャーナリスト）、竹信三恵子（朝日新聞編集委員兼論説委員）、宮本みち子（放送大学教授）、樋口恵子（評論家）、山口洋子（日本労働組合総連合会副事務局長）、横井千香子（株式会社キュービタス顧問）

①、②とも場所：女性と仕事の未来館

お申し込みはHPから。http://www.miraikan.go.jp

リレートーク

Relay Talk 1

めいわ市民活動サポートセンター理事・MCネット（明和子ども・家庭支援ネットワーク代表・DVチャイルドネットワーク代表）

Irie Atsuko

江 京子

いりえ あつこ



私が男女共同参画と向き合うようになったのは、三重県の「男女共同参画条例」施行一周年記念事業の実行委員を引き受けたところから始まりました。

そこで様々な分野の女性達と出会い、自分たちの置かれている立場がやはり男性社会の中での活動に留まっていることを痛感しました。めいわ市民活動サポートセンターの立ち上げに携わり、女性たちが持っている力をもっと引き出せたらと思いました。今回、明和町議会議員選挙に出ようと思った背景にも、私たち女性自身も変わらなくては何も始まらないと思ったからです。

20年近く子どもの虐待に関わり、その母親の自己肯定感の低さにも驚くばかりです。近年デートDVが増加する中もっと自分に自信を持って生きていける社会になればと思います。

Relay Talk 2

アビオあおもり 青森県男女共同参画センター 副館長

Osanai Sekiko

小山内 世喜子



当館は今年10周年を迎え、平成18年度からは指定管理者が管理運営しています。子ども家庭支援センターとの複合施設のため若い世代の来館者や、貸館による会議・研修で訪れる企業等の男性が多いことも特徴です。

指定管理者として運営するにあたり、県の拠点施設としての事業内容の充実と具体的な事業を通して、関係機関・団体、市町村や企業、そして受講生との信頼関係を築くことに力を注ぎました。

そんな中、女性対象の再チャレンジ支援事業やプチ起業家支援事業等の受講生が、男女共同参画への理解を深めることで、チャレンジの場を広げています。また、新たなネットワークを築き、さらにエンパワーメントしている姿に、職員が逆に活力をいただいています。

一人ひとりの真摯な対応が連携の輪を広げ、男女共同参画の推進に繋がっていくことを実感しています。

編集後記

9月23日に埼玉県嵐山町の国立女性教育会館において、第8回APEC男女共同参画担当者ネットワーク（GFPN）会合が開催されました。教育会館内の会場である研修棟へ、本館から池のある日本庭園の中央を歩いていくのが近道なのですが、ここで一つ問題が。マムシが出るかもしれないので迂回路を通してほしいと（施設関係者は、数十年お目にかかったことがないから大丈夫ですよと言ってくれたのですが）。そこで、外国の参加者向けに【VIPERが出るので危険】と立て看板をして注意を促したのですが、VIPERとは何ぞやと問われ、説明に一苦労。

ちなみに、ヘビは「長虫」とも呼ばれ、虫の一種とされていて、その中でもマムシは毒を持っていて恐ろしい虫であるから、虫の中の虫という意味で「真虫」と名付けられたようです。

（編集デスク M.T）

Kyodo- Sankaku

月刊総合情報誌
「共同参画」12月号

www.gender.go.jp

第30号●2010年12月10日発行
編集・発行●内閣府
〒100-8914
東京都千代田区永田町1-6-1
内閣府男女共同参画局総務課
電話●03-5253-2111（代）
印刷●中和印刷株式会社

男女共同参画 シンボルマーク



男女共同参画

内閣府男女共同参画局では、平成21年に男女共同参画社会基本法制定10周年を迎えるにあたり、男女共同参画のシンボルマークを作成しました。

このシンボルマークは、男女が手を取り合っている様子をモチーフにし、互いに尊重しあい、共に歩んでいけたらという願いをこめています。

シンボルマークを使用する際は、ホームページに掲載した「シンボルマーク使用の手引き」を参照頂いた上で、以下の連絡先にご連絡をお願いいたします。

内閣府男女共同参画局総務課 広報啓発担当
電話：03-3581-2022（課直通）

男女共同参画シンボルマークの使用の手引き
<http://www.gender.go.jp/symbol/manual.html>